



やよい図書館

いつもやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

早いもので今年もカレンダーがあと1枚だけになってしまいました。忙しい中、街はイルミネーションで華やいでいたり、クリスマスイベントなどで楽しい時期でもありますね。やよい図書館でも23日～25日は本を5冊以上借りた方へ、にやよいサンタからクリスマスプレゼントがあります。どうぞお楽しみに。また普段、にやよいがカウンターで皆さまをお待ちしているのを知っていますか？フェイスブックやツイッターなどでも会えますのでぜひアクセスしてみてください。

年末年始の休館日 12月28日（土）～1月4日（土）

※年末年始の休館中は、返却用のブックポストもご利用できませんのでご注意ください。

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持っておすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください！！

館長の一冊

『つめたいよるに』 江國香織／著 新潮社

直木賞作家江國香織による初期の児童向けの作品です。この本には、作家活動の出発点である童話がいくつか収められています。都会的な江國ワールドが展開する小説とは少し違う、不思議な世界が広がっています。個人的には今でも大切にしている1冊で、特に『デューク』は、読むたびに泣きたくなる温かく感動的な作品。いつも手もとに置いておきたい、優しい気持ちになれる本です。小学生はもちろん、すべての世代で楽しめる内容なのでぜひご家族で読んでみてください。

今回読み返して、大切な人にクリスマスプレゼントとして贈りたりました。

俺の一冊（すぎ）

『わすれられないおくりもの』 スーザン・バーレイ／作・絵 評論社

「大切な人が死んだ後には何が残るのか？大切な人が死んだ後には楽しい思い出が残る。」読み終えた後に私は短絡的な答えを導いた。ひょっとしたら、皆この答えを思いつくも口に出さずにもっと深い考えに入り込んでいくのかもしれない。それはそれで自由だろう。さて、もうひとつ、この物語の主人公は、死を迎えた者か、残された者たちか、はたまたこのように考えさせられている読者なのか・・・。結局、深い考えの入口に来てしまった自分と何も考えていない自由な小学3年の息子がいた。「僕は悲しい本は好きじゃない」・・・うん。それもひとつの答えた。

私の一冊（本）

『ミュージアム・レストランガイド』 畑中未応子／著 朝日新聞社

美術館や博物館というと、「興味はあるけどちょっと敷居が高い」と感じる方、「各施設、どんな特徴があるの？」と疑問に思う方もいるのではないでしょうか。そんな方におすすめのこの本、なんと美術館、博物館、庭園、動物園、植物園といったミュージアムを、鑑賞ポイントだけでなくレストランに注目してガイドしています。和食、洋食、和菓子にデザートと施設によって様々なメニューが紹介され、「ミュージアムって鑑賞だけじゃなく、食べることも楽しめるんだ！」と気づかせてくれます。ミュージアム初心者でも、読んだ後きっと足を運びたくなる一冊です！

読書の窓 電話



12月は電話に関する記念日がいくつもあります。

例えば3日は自動車電話の日とコードレス電話の日、16日は電話創業の日、23日はテレホンカードの日と一週間に一度、電話に関する日があります。

電話は1876年にグラハム・ベルが発明して以来、固定電話からスマートフォンまで中身も外見も常に進化し続けています。今回はそんな電話に関する本を紹介します。

『電話100年小史』

日本電信電話株式会社 広報部／編

日本電信電話株式会社

日本にはじめて電話機が輸入されたのは、アレキサンダー・グラハム・ベルが電話を発明した1年後の明治10（1877）年です。この本には1990年までの歴史が紹介されています。現在まで様々な進化を遂げ続けている電話の歴史を振り返ってみませんか。

『メリーな夜のあぶない電話』

タカオのつくもライフ2』

斎藤洋／著 佼成出版社

交番に何度も届けても家の庭に戻ってくる携帯電話。タカオは相棒のつくも神、マウンテンバイクのチャーリーとともに謎の解明に取り組みます。一方でクラスメイトのかわいい女の子にも差出人不明のハガキの謎も相談されます。二つの謎を解き明かすタカオに注目です。

『NHKすいエンサー』

NHK「すいエンサー」プロジェクト／編

汐文社

携帯電話の電波がなくなるのはなぜ？ジェットコースター嫌いを直したい！など身近な疑問や悩みを科学の分野から探ります。児童向けで易しく、専門家の下できっちり実験をして答えを探します。実験方法も載っていますので、挑戦してはいかがでしょう。

『泣く大人』

江國香織／著 世界文化社

作家として活躍する江國香織の日々を綴ったエッセイです。よしもとばななの『うたかた』では「絵に描いたモチ」と言われた電話ですが、江國さんにとっては、外国滞在中の救世主となったようです。ある日、怖い夢を見て目が覚めた彼女がとった行動とは？男友達や好きな本など、作家江國香織の内面が垣間見える一冊。

『iモード事件』

松永真理／著 角川書店

ドコモのサービスであるiモード、その生みの親の著者による誕生秘話です。十年以上前に書かれたものなので、技術などの内容としては古い部分もあります。しかし、当時としては最先端のサービスを新たに生み出すその情熱や活気などは、しっかりと伝わってきます。

☆読書の窓☆

10月から六本木の森アーツギャラリーで「スヌーピー展」が開催されています。スヌーピーの漫画はたった4コマなのにキャラクターたちに様々なことを気付かされます。スヌーピーの誕生秘話や日本初公開の原画、キャラクターの性格が紹介されていて、スヌーピー初心者も楽しめます。